

富山県周辺エリア マネジメント

- 藤井 裕久 (富山市長) ※特別委員
- 新田 八朗 (富山県知事) ※特別委員
- 牧田 和樹 (富山経済同友会代表幹事) 【歴任】
- 富山県立総合教育センター 学部長
- 西村 幸夫 (富山大学名誉教授)
- 藤澤 悠 (富山大学大学院教授)
- 品川 祐一郎 (富山商工会議所副会頭)
- 藤澤 滋 (富山大学長)

富山県周辺エリアマネジメント協議会



インターネット等の実施に
活用可能な補助メニューは
二次元コードから
ご確認ください

富山県民生活力導入・財産活用課
Mail: kani-kaminrenkei@pref.foyama.lg.jp
TEL: 076-444-8904
(口開き)

●県は、富山県と関係者との対話を重ねながら、エリアマネジメントやありたい姿の美境に向けた具体策を策定し、実行に移ります。
●まちづくりの残照・背風および民間投資の呼び込みを進め、まちづくりの実行者となるよう伴走支援を行います。
●NHK跡地(芝生・アスファルト・砂利敷)を活用していただけるアライナーを募集しています。使用料は無料で、電気、給排水設備済みです。
●短期利用や令和10年までの複数年利用も可能です。
●是非、インターネット等で活用ください。

この場所から、 富山を新たな時代へ牽引する。

富山城、廃川地、戦災復興、松川…

まちづくりの歴史の変遷において、このエリアは常にまちに息吹を与えてきました。富山の未来を見据えた時、県庁を中心としたこのエリアの魅力を高めることは、全県的かつ中長期的な価値の創出につながります。

富山県は、県民の皆さまとともに、このエリアのありたい姿の実現に向け、持続可能なまちづくりにチャレンジしています。

わたしたちの課題

富山のまちの中心で歴史資源を持ち水辺や公園空間を備えたエリアその資源や環境を有効活用したい

このエリアをこれからの時代にふさわしい富山を代表する都市空間に変革して県全域に付加価値を上げたい

広大な公有地においてまちづくりの活動やプレイヤーを増やしまちなかの活性化に寄与したい

History

江戸期

明治~昭和戦前期

昭和戦後期

平成~現在

城下町 行政と賑わいの中心地

天文12年に築城された富山城は、まちなかで大きく蛇行する神通川により造られた自然堤防上に整備された。神通川は天然の外堀として活用され、江戸期に64艘の船を鎖で繋いで架けられた舟橋は、立山連峰の景勝と合わせて全国に知られる名所であった。



出典: ColBase
(https://colbase.nich.go.jp/)

廃川地 近代都市の形成

明治期に入り、水害を防ぐために神通川の直線の分水路を造る馳越線工事が行われた。旧川筋(現松川)は廃川地として埋め立てられ、県庁舎・市庁舎・電気ビル・神通中学校などが立地し、都市の中心に新しくまちが誕生した。



出所: 富山都市計画事業報告 (富山県土産物館所蔵) (90' 図録として掲載)
出所: 昭和初期の神通川敷川地 (富山県土産物館所蔵)

戦災 先駆けた復興都市計画

昭和20年8月1日深夜の富山大空襲により、富山の市街地の99.5%が焼失した。戦後、戦災復興都市計画が策定され、現在の城址大通りと平和通りを中心街路と位置付け、富山駅周辺と商店街地区の二大開発拠点構想が掲げられた。



出所: 富山県
未来に語り継ぐ富山大空襲の記憶

都市課題 まちづくりの実践

中心市街地の空洞化が大きな課題となる中、富山県は全国に先駆けてコンパクトシティ政策を推進し、公共交通を軸とした歩きたくなるまちを目指してきた。富山県は富岩運河環水公園や松川べりなどの水辺空間を活かしたまちづくりを進めてきた。

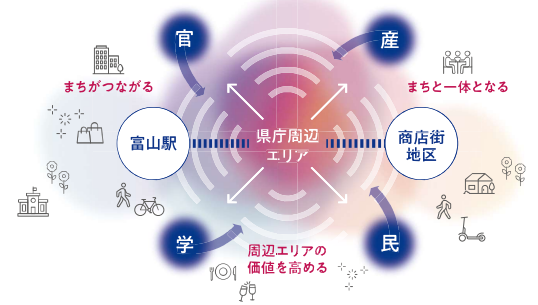


©(公社)やま観光振興機構

県庁周辺エリアの 3つのありたい姿

富山のまちの中心に位置する立地特性や歴史的な意義、水辺や緑の良好な環境…このエリアの価値を最大限に高め、新たな時代に向けて富山県の都市競争力を高める「核」となるため、県庁周辺エリアの「3つのありたい姿」を描きました。

- 01 憩いと愉しみ あなたの幸せ**
歴史・水辺・緑を生かした憩いと愉しみの空間を形成する。訪れる人にとって「ウェルビーイング」なエリア
- 02 まちにつながりと 一体感を醸成する**
周辺街区との連続性・回遊性を高め、まち全体ににぎわいの好循環をもたらすエリア
- 03 県全域に 付加価値を届ける**
県内外の多様な人材が集まり産学官民連携が行われ、富山のまちの核として求心力と発信力を生むエリア



▶ エリアコンセプト

いつでも、歩くたびに…を感じる。



緑を

緑あふれるまちなかのオープンスペースを生み出し、居心地の良い空間とする

共創を

地域課題解決と共に目指す共創コミュニティを築き上げていく

集まりを

県内外から人・企業・資金・情報が集まり交流が生まれる

広がり

生み出された付加価値を県全域に波及させて、日本各地や世界へ発信していく

水辺を

松川をより親しみのある水辺空間としてエリアの価値を高める

憩いとゆしみを

365日、訪れる人々が憩いとゆしみを感じられる多様な居場所になる

つながりを

歩いて楽しめる空間として賑わいの連続性と回遊性を高める

▶ アクションプラン骨子

エリアコンセプトやありたい姿の実現に向けて、県庁周辺エリアの空間のデザイン・活用を積極的に進めます。

5つのアクション

- 01 ウォーカブルで一体的な歩行者空間を生み出す
- 02 まちなかにおける緑のオープンスペースを創出する
- 03 松川べりを憩いの水辺空間として魅力を向上させる
- 04 歴史ある県庁舎本館をまちに開かれた賑わい拠点として複合的に活用する
- 05 富山駅～商店街地区との連続性・回遊性を高める



#緑とオープンスペース
#ウェルビーイング



#松川
#ウォーカブル

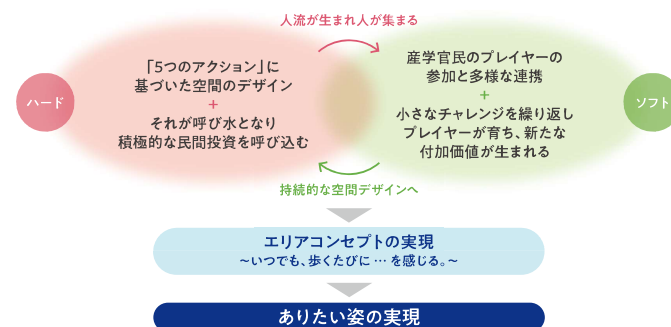


#県庁舎本館
#賑わいと交流



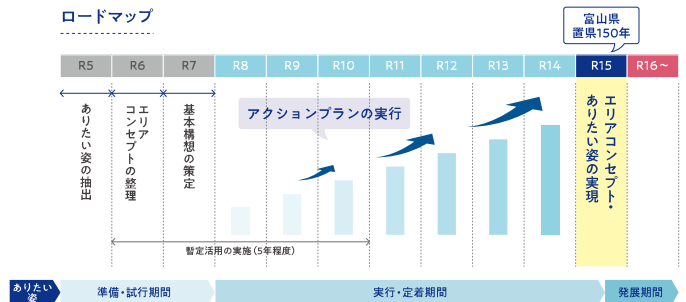
#共創
#エリアマネジメント

エリアマネジメントの視点



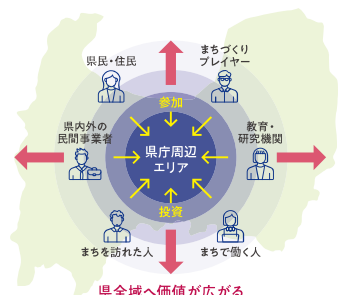
▶ 未来に向けて

ロードマップ



あなたとともに、未来を創り上げていく

未来に向けて、県庁周辺をもっと素敵な場所にするためには、皆さんの力が必要です！行政だけに任せるのではなく、富山県に関わるすべての主体が実行者となり、この場所ならではの多様なプロジェクトを共に創り出しましょう。ここで生まれる価値を県全体に広げ、一人ひとりのウェルビーイングを実現し、新たな社会経済システムを構築してまいります。さあ、一緒に。あなたが輝く未来へ！



県全域へ価値が広がる